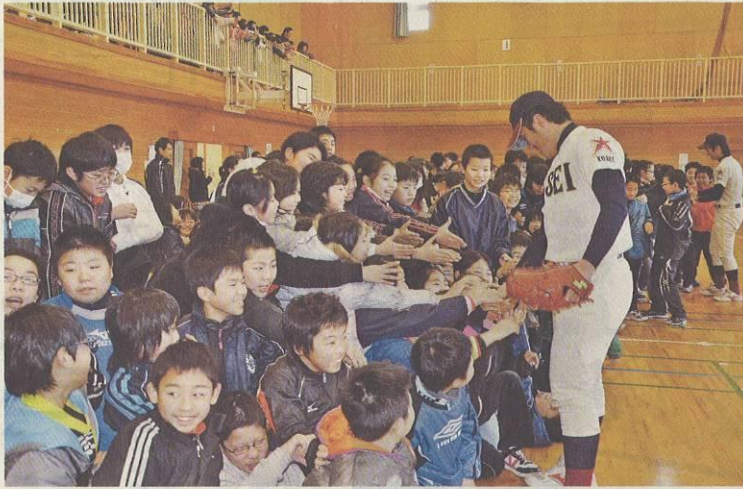


八戸・吹上小

努力の大切さ実感

光星高選手招き野球教室

八戸市立吹上小学校(三笠勝彦校長)は21日、今夏に甲子園で準優勝し、11月に明治神宮野球大会高校の部で優勝を飾った同市の光星学院高校(法官新一校長)硬式野球部の部員たちを招き、野球教室を開いた。子どもたちは憧れの選手の話に聞き入り、夢をかなえるための努力の大切さを学んだ。



選手に次々と握手を求め、子どもたち

憧れの存在、児童が大興奮

招いたのは甲子園で活躍した3年生19人、2年生4人、仲井宗基監督、小濱巧聖コーチで、会場に選手らが入場すると全校児童637人は大興奮。選手一人一人が自己紹介をした後、来春にプロ野球のヤクルトに入団する3年の川上竜平君が「目標の方向だけを向いていたら、夢がかなった。夢があったら、それに向かって頑張ってください」と子どもたちにエールを送った。仲井監督は「山を登る速度は、それぞれであっていい。目標を設定して、そこにたどり着けるように頑張ることが大切だ」と力強くアドバイスした。吹上小の野球部員らがバッターボックスに立ち、甲子園でエースピッチャーとして活躍した3年の秋田教良君の速球を受けた。子どもたちは球の速さに驚いた様子で、懸命にバ

ットを振った。野球部長の6年森林宏太君(こ)は「秋田選手の手球は、体重がすっしり乗っていて重く、たくさん練習しているのが伝わってきた。さらに憧れました」と目を輝かせた。